

| 達成度（評価） | |
|---------|-------------|
| A | 十分達成できている |
| B | おおむね達成できている |
| C | やや不十分である |
| D | 不十分である |

| 学校名 | 白石町立有明東小学校 |
|-----|------------|
|-----|------------|

| 1 前年度 評価結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> 学力向上に向けた取組では、学力向上コーディネーターが中心となって、県学習状況調査結果の分析から課題の把握、対応策の検討等、全職員で分担して研修を行った。教職員アンケートの項目『学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教職員が90%以上』達成しており、日々の指導により、学習状況調査の結果も良好。 業務改善及び教職員の働き方改革の推進では、働き方改革の研修を行い、個人の振り返りと今後の取り組みを考えさせ、教職員の意識の改革を行った。時間外在校等時間の平均は減ったが、まだ上限(月45時間)を遵守できていない教職員がおり、引き続き取り組んでいかなければならない。 |
|---------------|---|
|---------------|---|

| 2 学校教育目標 | 進んで学び さわやかに たくましく生きる子どもの育成 |
|----------|----------------------------|
|----------|----------------------------|

| 3 本年度の重点目標 | <p>① 全ての子どもが「学ぶ喜び」「分かる・できる喜び」を感じられる教育活動を推進し、学力の向上を図る。</p> <p>② 全ての子どもに「自分や友だちのよさを認め、仲よく活動する」機会を作り、「学校に来てよかった」と思える成就感の向上を図る。</p> |
|------------|---|
|------------|---|

| 4 重点取組内容・成果指標 | 中間評価 | 5 最終評価 |
|---------------|------|--------|
|---------------|------|--------|

| (1)共通評価項目 | | | | 中間評価 | | | | 最終評価 | | 主な担当者 |
|--------------------|--|--|---|-------------|---|-------------|------|---------|-------|--------------|
| 評価項目 | 重点取組 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | |
| | | | | 進捗度 (評価) | 進捗状況と見通し | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| ●学力の向上 | ●全職員による共通理解と共通実践 | ●学力向上対策評価シートに示したマイプラン(めあて・まとめ、表現)の成果指標を達成した教師85%以上 | ・校内研修を行い、共通理解を図るとともに、全職員で継続的に徹底して指導を行う。 | B | ・「共通実践のためのマイプランを実施している」と答えた職員の割合は100%である。しかし、よくあてはまると答えた職員は15.4%であることから、自信をもって答えることができるようにしていきたい。授業づくりチェックを学期末等に行い、意識させていく。 | | | | | 学力向上コーディネーター |
| | ◎主体的・対話的な学びの充実 | ○「学習のめあてをもたせ、まとめにつなげている。」の質問に対して肯定的な回答をする職員の割合90%以上にする。 | ・めあてを子ども目線で立てることができるような授業実践を行うために、教材研究・児童理解を深める。 | A | ・学習のめあてを持ち、学習に取り組んでいる」という児童の割合は95.7%であった。今後は「よくあてはまる」と答えている児童の割合が増えるよう、教材研究をさらに深めていきたい。 | | | | | 学力向上コーディネーター |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○「自分のよさに気づくことができる」という児童を85%にする。 ○「友だちのよさが分かる」という児童を95%にする。 | ・道徳の学習や日頃の活動を通して、自分のよさに気づくと共に、他者への思いやりや心を育てるための取り組みや指導の在り方などを工夫する。 | B | ・自分のよさに気づいている児童は78.5%、友達のよさに気づいている児童は95.7%であった。2学期からも道徳等の学習や日常の活動を通して、児童のよさを称賛したり、褒め褒めタイムなどの活動を設けたりすることで、自他のよさに気づくことができる児童が増えるよう取り組みを継続していく。 | | | | | 特別活動部 |
| | ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 | ○小さないじめ事案を見逃さないように、報告・連絡・相談をしようとした職員の割合を100%にする。 ○「友だちと仲良く協力し、学校で楽しく過ごすことができている」という児童を95%にする。 | ・子どもの観察や定期的なアンケートで実態を把握し、問題行動やいじめに迅速に対応する。 ・小さな事案でも関係者での話し合いやケース会議を行う。 ・児童理解連絡会を定期的に設け、職員全体で把握する。 | A | ・いじめに関する研修を受けたことで、些細ないじめ事案も見逃さない、適切に対応するなど、職員の意識を高めることができた。 ・94.6%の児童が友達のことを思いやり、楽しい学校生活を送ることができている。 ・細やかな児童観察やアンケートでの実態把握等をするともに、気になる児童はケース会議やSOとの相談を行う。また、児童連絡会で報告することで全職員が把握し、何らかの支援ができるようにしている。 | | | | | 特別活動部 |
| ●健康・体づくり | ●「望ましい生活習慣の形成」 | ○気持ちの良い挨拶ができる児童の割合を90%にする。 | ・月の生活目標との関連を図る。 ・学年に応じた挨拶の仕方を指導し、定期的な振り返る機会をつくり意識づけをさせる。 ・挨拶週間を設定して挨拶に対する意識を高め、よく頑張っている児童を褒める。 | A | ・96%の児童がほぼ気持ちの良い挨拶をしている。 ・引き続き、定期的な振り返りや挨拶運動、学年での指導、賞賛をして、さらなる徹底を図る。 | | | | | 生活指導部 |
| | ○「安全に関する資質・能力の育成」 | ○廊下右側歩行率を90%以上にする。 | ・月の生活目標との関連を図る。 ・視覚的に右側歩行を意識できるよう、掲示を工夫する。 ・定期的に振り返る機会をつくり、よく頑張っている児童を褒める。 | A | ・93%の児童がほぼ右側歩行をしている。 ・引き続き、教師による声かけや児童自身による定期的な振り返り、学年等による取り組みによって、さらなる徹底を図る。 | | | | | 生活指導部 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 | ○教育委員会規則に掲げる時間外在校時間の上限(月45時間 年間360時間)を遵守する。 | ・定時退勤推進日の退勤時間を守られた日数を90%以上とする。 ・共通理解を効率的に行い、会議の回数や会議時間の精選及び効率化を図る。 | B | ・定時退勤推進日の「18時までに退勤」を守られた日数は87.5%だった。夏季休業の7月と8月を除いては、毎月5～6名、時間外勤務時間が月45時間以上だった。 ・パソコン内の「掲示板シート」で共通理解を図るようにしたため、連絡会の時間削減ができた。 | | | | | 教頭 |

| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | | 中間評価 | | | | 最終評価 | | 主な担当者 |
|----------------------|---------------|-------------------------|-----------------------------------|-------------|--|-------------|------|---------|-------|----------|
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | |
| | | | | 進捗度 (評価) | 進捗状況と見通し | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| ○特別支援教育 | ○職員の専門性と意識の向上 | ○特別支援に関する専門性が向上した教員100% | ・特別支援に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催と情報共有 | B | ・「児童の実態を把握し特性に応じた支援に努めた」という職員は、「よくあてはまる」48.2%、「あてはまる」53.8%であった。 ・「応用行動分析の考えを基にした行動」研修を行った。 ・必要に応じてケース会議を開き対応策を講じ支援に当たった。 | | | | | 特別支援教育担当 |

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

| 5 総合評価・次年度への展望 | |
|----------------|--|
|----------------|--|